

第3回  
第8期高砂市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会  
会議録（議事要旨）

- 1 開催日時 令和2年10月16日（金）10:00～12:00
- 2 開催場所 高砂市役所南庁舎5階大会議室
- 3 協議事項
  - (1) 第8期事業計画の素案について
  - (2) 第2回策定委員会会議録（議事要旨）について
  - (3) その他

4 議事

- (1) 第8期事業計画の素案について

【事務局より「第8事業計画素案」資料説明】

委員質問 マイ避難カードの作成支援及び活用方法の周知というのはどのようなものか。

事務局 言葉については資料編の用語集で説明する予定だがまだ整理がついていないため、整理次第提示する。マイ避難カードとは個人が作成し持っておくもので、例えば台風の際は状況に応じての準備や避難等、事前に作成しておくタイムスケジュール的なものになる。

委員質問 15Pの特別養護老人ホーム待機者数の推移で待機者が減少している要因は何か。

事務局 高砂市では床数が増えてないが、例えば加古川市では広域の特別養護老人ホームができており、そちらに高砂市の方が入居している実態はある。そういったところが影響していると考えている。

委員意見 待機者の定義で特別養護老人ホームに入る人の基準が国から示された際、要介護度3以上というところがひっかかった。かなり限定されているのではないか。ひとり暮らしや家族の介護力の低い高齢者では要介護1、2でも必要としている方がいると思うが、そういう方が漏れていないか。ケアマネさんも把握されてはいると思うが、その辺の実態はどうなっているのか。

事務局 特別養護老人ホームは原則、要介護3以上の方が入所する施設として運用されており、待機者数は要介護3以上の表記になってしまう。おそらく要介護1、2の方でも申込段階は可能かと思うが、ニーズ把握まで至っていないのが現状。

委員意見 入所者を要介護3以上に限ることは問題ないと思う。要介護3以上で縛らないと、安易に要介護1、2の人を入所させることになりかねず、結果的に要介護4、5の人はどこへ行くのかという問題につながるため、小規模多機能と看護小規模多機能の整備を増やすことに関して、私は納得できる。

委員意見 介護保険の認定審査等に関わりがないので分からないが、認知症の場合、BPSD（周辺症状）が激しい人・軽度・中度が、要介護認定にどれだけ反映されているかにも関わる。軽いから必要ないではなく、認知症の方のご家族は、寝たきりの方が介護が楽になることが実態としてある。そういうことを考えた際、介護度だけで施設利用を考えてもいいのかという疑問がある。私は県の精神医療審査会の委員をしているが、精神科病院への入院が増えている。BPSDの方は施設で

も難しく精神科病院へ行くしかない。そういう方は家族が一生懸命退院させる努力をしない限り、一生精神科病院に入院、いわゆる施設代わりになる。そういう実態を見た上で認知症＝介護保険も考えていかないと、介護保険制度の枠組みの中でだけ把握しようとしたら、きちんと実態が見えないのではないかと思う。

事務局 施設整備全体については我々も思案中。人口推計において、令和4年頃をピークに65歳以上の方は減少傾向にある。様々な事業者のお話も聞かせていただき、新しい施設を建てて10～20年で元が取れたとしても、その先人口減少になれば採算が合わなくなるため整備については非常に難しい局面で、何床増設すればよいか、どういった形で進めたらよいか悩んでおり、もっと検討していきたいと考えている。認知症の方が施設と住宅をうまく利用しながら（BPSD症状が強い方等は、その期間だけでもお願いし、薬を合わせてもらい在宅で生活ができるよう）暮らしていけるよう考えていかなければと思っている。

委員長 医療介護連携のところに精神のことを書かなくてはと思う。特養入所は要介護3以上ということは国の決定であり市でどうこうはできないが、要介護1、2の方の選択肢であるグループホームの整備をどう整えるか。施設を作る等の話ではなく、どういう施策をとっていくのかに関わってくる。計画自体に住み慣れた地域で、という柱があるので、そこを離れない形の施策で、かつ機能や役割を分けた形になるのかと思う。待機者が減ってはいるが、まだ待機者がいる状況の中では、グループホームの小規模化がよいと思う。10～20年後には高齢者が減ってくることもあるのでその次の段階として特養の跡地になるような形、機能をどう生かしていくのかを市や地域の中で考えていかなければならず、その際に精神科の病院との連携をどのようにしていくかも含め、検討する必要がある。10年先延ばそうではなく、今できることをやっていく必要がある。

委員意見 多様性が出たので要望。現在、特に重度の方へのサービスの説明に小一時間かかっている。サービスが多様化すればするほど、分かりやすい周知、説明が必要であり、現場で説明する際、分かりやすく、説明しやすい資料があればよいと思う。その中で小規模多機能をもっとアピールしてもらってよいと思う。

災害支援はケアマネの大きなテーマ。結局行政との連携という話で最後は落ち着いて、協会は何もできないという話になるが、ケアマネの存在を抜きにできない部分もあろうかと思うので、マイ避難カード等の様々な施策を作る段階で、協会にも声掛けいただければ積極的に入っていただけると思う。

待機者数の事だが、要介護3で申込希望の方には積極的にはお勧めせず、要介護4～5になり本当に緊急性があれば考慮してもらえるところに申込をしようとして利用者に伝えている為、そのような実態もある数字だと知っておいてほしい。

事務局 先ほど意見があった施設の詳細を説明した冊子等、分かりやすい、説明しやすい資料の必要性は感じているので考えていきたい。

災害対応についてはケアマネ協会さんの協力を得られるとの事、我々も非常に助かるのでよろしく願います。

委員意見 看護小規模多機能は5月から行っており、高砂市の事業として助成金もいただいている。コロナの影響で活動を制限されていることはあるが、小規模多機能や看

護小規模の認知度が低すぎる。ケアマネでも認知度が低い。高砂市の事業の一環で施設整備をしたところもあるため、制度の認知度を上げる事に力を入れる必要がある。これから団塊の世代が増えてくるのであれば、行政としても介護保険制度や福祉制度のサービス内容の周知を行ってほしい。

事務局 前回説明したニーズ調査結果でも認知度が低いデータが出ており、周知しきれていないと感じている。今後は広報等で高齢者施策等の特集を組み合わせながら周知・啓発を行いたい。

委員長 整備計画はとても難しく、計画上整備しますというのは計画書に書ける。ただ、整備するのは事業者で、市ではない。整備ができた、ということで市としては計画上クリアになってしまうため、整備して終わりではなく有効活用されて初めて整備として成立する必要があると思う。

委員質問 大目標の中の地域共生や、複雑なニーズに対して対応していくという点で、本当に地域包括支援センターの役割は非常に重要だと思う。行政のいろいろな縦割りのなか、住民の相談をワンストップで受ける体制はこれから必要なのではないかと思うがいかがか。

事務局 今の話は国でも問題視されており、総合窓口的なものは進めていくような話が出ている。一か所の窓口で全て解決は難しいが、まず話を聞いて適切どころに案内するといった対応が大切だと思っている。来年11月頃に新庁舎ができるので、その際何かの形で対策をするよう検討している。

委員意見 高齢者版、障がい者版ではなく、複合的な地域のサポートを考えると、住み慣れた地域でということというのは本当に重要だと思う。きちんと位置付けて安心して窓口で相談できるような体制を考えるべきだと思う。

年金をもらいながら、70歳でも働いている高齢者は増えている。元気で働いているだけでなく、軽い認知症を持ちながらも働かざるを得ない方たちの支援も必要ではないか。そういう意味で移動支援が必要。働こうと思えば移動が必要になるし、認知症になれば移動には必ずサポートが必要になる。ボランティアを募集してもなかなか集まらない事も踏まえ、さらなる強化策が必要ではないか。

事務局 包括支援センターも高砂地区にありどちらかというと端のほう、障がい者の基幹支援相談センターも北浜の端のほうにあるという認識はあり、課題だと思っている。移動支援の話は、どのような形がよいか開始期間・対象者を検討している。

委員長 移動に関してはコンパクトシティの話が出る可能性がある。機能を集約したとして、バスを出すだけでなく、既存コミュニティーの人達を考えてあげてという問題が出てくる。だからこそ今移動支援について明確に挙げておく意味は出てくる。基本目標について、7期は「地域共生社会の推進」だが8期では「実現」になっている。実現して推進ではないか。目標2の「地域包括ケアシステムの深化・推進」も、「強化」になっているため若干戻っているイメージ。その辺りの文言を一度確認し、本当にこれでいいのか見て頂く必要があることと、公助の位置づけ。「自助」や「互助」の果たす役割が大きくなることを意識して「公助」に取り組んでいくことが必要。普通は逆。市は何をするのかという話になってしまうので、この辺りの文言の書き方は慎重に。市民目線に立った計画になってほしい。

- 事務局 貴重なご意見ありがとうございます。検討します。
- 委員質問 避難行動要支援者個別計画の危機管理室と高年介護課の関わりについて聞かせていただきたい。
- 事務局 危機管理室と高年介護が連携しているが、避難行動要支援者の個別計画の作成というところでは高年介護課が中心になり危機管理室と連携を取っているというような形。名簿の共有や、各町の説明会は危機管理室と我々も一緒に出向き、全体的な話から個別計画の話等の流れを説明している。
- 委員意見 危機管理室と高年介護課がやっているのはわかるが、詳細が不明。一度、連合自治会会長や民生委員の会長等色々な方を集めて話をする場を設けてほしい。
- 事務局 避難行動要支援者の関係では平成30年の後半から31年の4月、5月ぐらいまでに各町の連合自治会の集まりに参加し、説明した。単位自治会で話が聞きたい場合は声掛けしていただければ説明に行っており、今年も数か所参加させてもらった。声掛けをいただければ説明には出向くようにしている。
- 委員意見 単位自治会ではなく、もう少し色々なところの方々を集めて説明をされる場を持たれたらいかがか。3年のうちに一度でもやっていただきたい。
- 事務局 危機管理と相談しながら検討していく。
- 委員長 地域でこのような役割のある方と行政とで情報共有の場を設けていただければよいと思う。ただ、コロナの件で大勢の開催が難しいケースが沢山出てくる。計画の数値も、コロナの関係で数値の達成が難しいものは必ず出てくると思う為、その視点は入れておいたほうが良いと思う。いきいき百歳体操がオンラインでとなるとなかなか難しいと思うが、やり方や方法を変えていかなければならないと思うので、こういう時代だからこそその在り方を考えていくという文言はどこかに入れておく必要が出てくると思う。
- 事務局 6章の数値が全然出ていないが、次回に出てくるのか？
- 事務局 国からの話がまだ出ていない。改定によっては数値が全く変わる事もあり、待っている状況。国の発表のタイミングにより、次回提出は難しいかもしれない。
- 委員長 国の発表時期もあるが、パブコメ前には数値を出さないといけない。
- 事務局 国の状況を調べ、出せるところは出していく。
- 委員長 5章の部分が高砂市としての取組が比較的強く言える部分になってくるかと思う。パブコメ前に再度委員会で見ていきたいと思っている。

## (2) 第2回策定委員会会議録（議事要旨）について

- 事務局 第2回の議事の要旨をお配りしている。要旨はホームページに公表予定なので、内容について何かあれば市役所高年介護課にご連絡いただきたい。

## (3) その他

- 事務局 次回以降の会議日程等についての説明